



# THE Y'S MEN'S CLUB OF KANAZAWA-SAIGAWA

CHARTERED IN JUNE 12, 1993

AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF  
Y'S MEN'S CLUBS

THE SERVICE CLUB OF THE YMCA

c/o YMCA : 44-1, SATOMICHO, KANAZAWA, JAPAN ☎920-0998 ☐(076)221-5398

<http://ys-saigawa.web.infoseek.co.jp/>

国際会長主題	「とにかくやろう-成せば成る」 “Audere est Facere – To dare is to do”
アジア地域会長主題	「とにかくやろう-成せば成る」 “Audere est Facere – To dare is to do”
スローガン	「信念をもって使命をはたそう」 “Mission with Faith”
西日本区理事 主題	「ワイズの原点、愛と奉仕で社会に貢献」
副題	“Contribute to the Community through Active Services with Love.” 「理想を目指して変革と行動！」 “Change Ourselves and Take Actions toward Our Lofty Goal”
中部部長主題	「先ず、一歩 一楽しもう、学ぼう、働こう、そしてつなげようー」
金沢犀川クラブ会長主題	「わくわく例会 広げよう仲間の輪」
	“Energize Our Meetings, Widen Our Circle of Friends”
会長：北肇夫 副会長：澤瀬諭 書記：高木啓一 会計：川村孝治 直前会長：三谷信三	

今月の聖句： イエスはお答えになった。「わたしの父は今もなお働いておられる。だから、私も働くのだ。」  
ヨハネによる福音書 5. 17

## 2012年3月強調月間

EF・JWF

個人や家族、またクラブの周年などを記念して、ワイズダムの発展のため、感謝の気持ちを献金という形であらわしましょう。

三牧 勉 ファンド事業主査

☆☆☆3月例会案内☆☆☆	☆☆☆2月例会報告☆☆☆
<p>日 時：3月8日(木)19:00~21:00 場 所：兼六城下町“ホテル兼六”2階「時雨の間」 金沢市兼六町2-5 TEL 076-210-8111 会 費：2,500円(会員不要) ***プログラム***</p> <p>司会 : 三谷君 開会・点鐘 : 北会長 ワイズソング : 一同 今月の聖句 : 司会者 ゲスト紹介 : 三谷君 食前の感謝 : 平口君</p> <p style="text-align: center;">—会 食—</p> <p>卓話：「放射線の中で生きる」新坂恭士氏 (金沢工業大学 数理工教育研究センター教授)</p> <p>事業委員報告 : 各委員 ニコニコタイム : 川村君 閉会・点鐘 : 北会長</p>	<p>[第一例会]2月12日(日)16:00~13日12:00、山中温泉“花つばき”、参加者：大槻信二氏(卓話者、西日本区文献保存委員長、京都センチュクラブ)・大槻メネット、川村君・北君・澤瀬君・平口君・三谷君。</p> <p>[第二例会]2月23日(木)19:00~21:00、金沢YMCA集会室、出席者：北君・澤瀬君・竹中君・平口君・三谷君</p> <p>富山YMCA創立60周年記念式典 2012年2月19日(日)、富山二番町教会、参加者：平口、北</p> <p>西日本区次期会長・主査研修会 3月10日(土)~11日(日)、新大阪チサンホテル、参加予定者：澤瀬次期会長、川村次期中部ファンド事業主査。</p> <p>第2回中部評議会・YYフォーラム2012 3月20日(祝・火)、名古屋YMCA会館、参加予定者：北会長。</p> <p>今月のハッピー・バースデー 北君 3月26日 4月の当番 司会：川村君、準備：澤瀬君 *例会に使用済み切手をご持参ください。</p>

当クラブ	2月出席者	2月出席率	BFポイント	ニコニコタイム
正会員 7名	メ ン 6名	85.7%	前年度繰越 3,342g	2月分 15,000円
広義会員 0名	メネット 1名		2月分切手 0g	
	ビジター 1名	メイキャップ 0名	今年度累計	
	ゲスト 2名		切手 3,342g	
			現金 0円	
合計 7名	12名	85.7%	計 3,342g	累計 68,111円

“TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT”

## ◆ 次期クラブ役員を選出 ◆

会長 北 肇夫

2月12日(日)山中温泉“花つばき”で開催された新春特別例会では、16:00から1時間の予定でメンバーのみによる議事が行われた。その結果、次期役員・委員については会長:澤瀬、副会長:川村、書記:北、会計:三谷、直前会長:北、Yサユース:澤瀬、地域奉仕・環境:北、EMCと交流:三谷、ファント:川村、広報・メールとプリン:平口が選出された。

なお、中部ファント事業主査には川村ワイスを推薦したことを再確認し、また、新入会員の竹中ワイスには三谷交流委員長のもと、特にワイス以外の団体・個人との交流を進めることに協力してもらうことにした。

## ◆ 2月新春特別例会に参加して ◆

平口 哲夫

恒例の新春特別例会は、2月12日(日)から山中温泉“花つばき”にて一泊掛けで行われた。卓話者の大槻信二氏は、メネットさん同伴でご参加、男っばい当クラブに“華”を添えてくださった。

卓話「私とワイス、そして金沢」は、大槻氏の半生というより人生の“三分二”をワイス並びに奥様と過ごして来られた熱い体験話であった。若い頃、駆け落ちみたいに金沢で過ごしたお二人が創設時のジャーマンベーカリーで働いたことがあり、その時からの金沢とのご縁は、ワイス活動を通して広がり深まり、この新春特別例会に繋がったわけで、私の好きな言葉「ご縁ですな」を地で行くような内容であった。

銀行勤務から独立企業してからは、ワイスを継続するためにもしっかり仕事をしなければいけないと、ワイスが重荷どころかかえって励みになったという。



**長浜クラブ 25 周年・彦根シャトークラブ 30 周年合同記念例会** (申込締切 3 月 31 日) 4 月 15 日(日)、北ビワコホテルグライエ、例会費 6000 円、参加予定者:三谷君。

**京都パレスクラブ 40 周年プラス 1 記念例会** (申込締切は 3 月 31 日) 2012 年 4 月 22 日(日)、京都ホテルオークラ、例会費 1 万円、参加予定者:三谷君。

**第 15 回西日本区大会の参加登録申し込み受付開始** (第 1 次申込締切 3 月 31 日) 6 月 9 日(土)~10 日(日)、滋賀県立文化産業交流会館(米原市)、長浜ロイヤルホテルで開催。

## 《 金沢 YMCA のホームページ 》

<http://ys-saigawa.web.infoseek.co.jp/kanazawa-YMCA.html>

## ◆ 富山 YMCA60 周年記念式典参加記 ◆

会長 北 肇夫

2012 年 2 月 19 日(日)、富山 YMCA 創立 60 周年記念式典行事が開催された。平口ワイスと共に朝倉・金沢 YMCA 理事長のマイカーに同乗して快晴の北陸自動車道を富山に向かった。式典会場は、富山市一番の繁華街のど真ん中「富山二番町教会」である。

式典は、日本 YMCA 同盟・島田茂総主事をはじめ全国各地の YMCA の関係者や地元 YMCA の皆さん約 120 名が参加し、まことに盛会であった。「記念礼拝」、「記念講演会」、「記念アトラクション」、「記念撮影」、「懇親会」と続くプログラムで、特に萩浦保育園児・職員とユースリーダーによるアトラクションは、元気溼刺として会場を大いに盛り上げてくれた。「懇親会」は会場をJR富山駅前の富山 YMCA “Y's さくらカフェ”に移して行なわれた。この施設は、普段、不登校・子育てに悩む人たちなどのサポートハウスとして利用されている。

「懇親会」の中締め後、金沢クラブの方々ともども朝倉理事長のマイカーに同乗し、今後の金沢 YMCA のことなど四方山話をしながら和やかに帰路に着いた。



第 3 部で披露された萩浦保育園児・職員による演技

## ◆ クラブ会計のつぶやき ◆

会計・ファント委員長 川村 孝治

2012 年 1 月第一例会のニコニコ献金を東日本大震災復興支援用として西日本区に送金したところ、プリン 2 月号には日本 YMCA 同盟に送ったと記され、また中部部長にもそう報告されていることが 2 月新春特別例会の会議の際に分かり、後日、訂正した。これが単なる誤記・誤報ならば、別に議論することもないが、微妙な認識の違いがあることにお互い気づいた。

最終的に同盟で復興支援に用いられるのなら、どちらでもかまわないという感がする一方、西日本区で 200 万円の支援目標を立てられたのはなぜかという素朴な疑問もないわけではない。大した額でもないの、あるときは同盟に直接送り、あるときは西日本区に送るといよりも、どちらかに絞って送金したほうが分かりやすいという意見もあれば、両方に義理立てしておけばそれでよいという冗談半分の意見もある。

それはともかく、西日本区が設定した 200 万円には何か特別の意味があるのか、たとえばこうしたいという西日本区独自の支援事業が考えられているのか、それともただまとまった額を支援金として同盟に送りたいということだけなのか。そのあたりのことがメンバーにも一般の人達にも明確に示されているほうが、理解と賛同を得られやすいのではないかと。

小さなクラブながら、東日本大震災の復興支援にはメンバー全員が熱い気持ちをもっている。もちろん日本国民の大多数が同様の気持ちでいることだろう。被災してもう 1 年になろうとしている現在、まだまだ支援を必要としているので、ボランティア団体である私たちの使命として微力ながら取り組んでいこうと思う。